

# なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.26号

平成25年11月17日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

ここには ブロアでとばす 落ち葉かな  
幼子の 眼に映える 燃え紅葉

## 今日の予定

表現学習発表会 (中学生以上) 2日目

## 今後の行事予定

12月8日 学芸会 (幼)、学習発表会 (小学生)

1月5日 書き初め

1月12日 書き初め Pコース、高等部説明会

## プリンストンコース小学部低学年の創作シリーズ (2)

「いるかとかに」 深堀鈴菜

ある日、うみで、いるかとかにが会いました。かにさんは、いるかに聞ききました。「いるかさん、せ中にのせてください。むこうの海は、見たことがないのです。」いるかは、「いいよ。のってごらん。」と、言いました。

「いいの?」「いいよ。のってもいいよ。」

いるかが言いました。

かにが、いるかのせ中にのぼりました。すると、いるかさんが、うみの中でおよぎはじめました。いるかは、はやくおよいだので、つかれてきました。

そこで「すこしやすんでもいいですか?」

と、聞きました。かにが、「いいよ。」

と言ったので、いるかは、ちょっとやすんで、またおよぎだしました。すると、かにさんが言いました。

「うみがきれいですね。」

見たことがないさかなや、見たことがないものがありました。

そのあと、まぐろに会いました。まぐろとかにが、いるかのせなかにのぼりました。でも、まぐろとかにがおもすぎて、あなにおちてしまいました。そのあと、人ぎょひめを見つけて、いるかさんが言いました。「おねがい。てつだってください。」

それで、人ぎょひめが、いるかとまぐろとかにをてつだいました。そして、みんなともだちになりました。

## 漢字検定 2月2日実施! 申込み始まる

申込締め切りは12月8日

日本語の新聞や本の文章を読むためには、どうしてもある程度の漢字に通じていなくてはなりません。漢字は表意文字なので、部位ごとの意味や関係が分かると、理解できる文字数は次々に広がっていきます。その入り口の一つが漢字検定への取り組みだと思えます。大人も受検できます。

日本の学校 (9) 「クラブ活動」

現在の中学校のクラブ活動は学校のカリキュラムには位置づけられていません。ですから、昔は全員加入だったクラブ活動も、近年では任意参加になり、生徒を強制的につなぎとめておくことが難しくなっています。地域で野球などの競技を指導する人材や機会が乏しかった時代には、学校でさまざまな運動等の技能を教えることが期待されていました。青少年の体力の向上のために学校が果たしてきた役割は相当大きかったといえると思います。

ところが近年ではその構造が変化し、極端に言えば、学校は地域のオンリーワンからワンオブゼムになっています。指導する先生は、クラブ活動の指導能力を認められて採用されているわけではなく、クラブ顧問になってから指導力を磨いていくこととなります。野球が得意なので野球部の顧問になるという例よりは、顧問になったから勉強して指導者としてがんばるという例の方が圧倒的に多いわけです。後者の人が良い指導者に成長するという例もないわけではないでしょうが、それはかなり稀な例になるでしょう。多くの場合は専門的な技術を持たない指導者が指導できる範囲は限られたものになり、生徒の可能性を十分に伸ばすことは難しいものです。

それまで長い間それで済まされてきたのですが、地域の状況は変化してきました。学校よりも地域に多くの有能な指導者がいて受け入れる施設も整っていますので、本当に専門的に上位を目指したい生徒は、地域のクラブに所属して専門的な指導を受ける傾向が大きくなっています。野球、卓球、水泳、テニス、剣道、柔道などのクラブがない学校が増えていきます。私が勤めた学校でも、生徒数の減少も相まって、クラブ数の減少は顕著になっていました。どうしても柔道をしたい生徒は柔道部のある学校に遠距離通学するというようなケースも増えているのです。

昔を知っている人にとっては、信じられないことだと思われるかもしれませんが、中学生のクラブ活動への参加率は低下し、全体的に低調になっていることは否めません。それは、社会や地域の環境が豊かになり選択肢が増えていることを、反映しているのです。

スケートや水泳などの例を上げるまでもなく、2020年東京オリンピックでメダルを獲得するために、国を挙げての英才教育はさらに加速していくでしょう。その結果、中学校のクラブ活動が徐々に活気を失っていくことになるのではないかと心配しています。